二〇二二年度入学試験　A－

京都先端科学大学附属中学校

国語

注意

○ 問題は全部で十四ページあります。

○ 「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。

○ 解答は、すべて解答用紙に記入してください。

○ 質問がある場合は、静かに手をあげ、教員が来るのを待ってください。

○ 「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は教員の指示にしたがってください。

一　次の1～5の□には数字が入ります。それぞれ漢数字で答えなさい。

1　三つ子の魂（たましい）□まで
2　□事休す
3　一を聞いて□を知る
4　鶴（つる）の□声
5　□里の道も一歩から

二　次は季語を季節が進んでいくように順番に並べたものである。（　①　）～（　④　）に当てはまる季語を語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

春浅し→（　①　）→花冷え→麦の秋→（　②　）→熱帯夜→天の川→（　③　）→秋惜（お）しむ→初時雨（しぐれ）→（　④　）→春近し

語群

ア　梅雨晴（つゆばれ）　　イ　名月　　ウ　柚子湯（ゆずゆ）　　エ　水温（ぬる）む

三　次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。作問の都合上本文を変えたところがあります。

「生きていきやすく食べる」ために、まずは「畏れを持つこと」について考えてみましょう。

上智大学神学部教授の竹内修一先生は、「*なにごとのおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる」という[1]西行の歌を引いて、「畏れる」とは「圧倒的に人間を超えた力に対して、尊敬の念をもよおすこと」とおっしゃっています。恐怖のほうの「恐れ」とは異なり、ポジティブで肯定的な意味にとらえていらっしゃるのです。

私はいま、そのような態度が失われていくことに不安な気持ちを抱いています。竹内先生もまた、「畏れ」を通じて人は己の分をわきまえて、慎みを身につけることができるとおっしゃっています。「畏」という字そのものに、「慎み」という意味があるのです。

この気持ちを失うと、もう頼るのは自分しかなくなり、個人主義的になってしまうでしょう。その態度はいつか私たちの足をすくうかもしれません。

そして、食という分野でも「畏れ」が必要なのです。

食べるということは、他者のいのちをいただくこと。それが、「畏れるべきこと」の根底に存在するのです。肉はもちろんのこと、卵、種、芽、つぼみなどすべては[2]いのちの先端。それらをいただくとは、どういうことなのでしょうか。

いのちは「食べる」「食べられる」ことで他のいのちとつながっています。他者のいのちを思うことは、自分のいのちを思うことと同義です。人は「畏れ」を失うと、生きていきにくい。つながりが見えなくなり、バラバラになってしまうのです。

では、もっとも畏れ敬うべきものとは何でしょうか。

私は、風土だと思います。

序章では、「生きていきやすく食べること」すなわち「風土に即して食べること」と申し上げました。このことをご理解いただくために、竹内先生の文章を引用いたしましょう。

それぞれの風土には、それぞれの香りがあり輝きがあり、味がある。食は、この風土の中で生まれ育まれる。それゆえ、そこに生きる人のいのちは、その風土によって育まれるといっても、[3]あながち間違いではないだろう。

（竹内修一『いのちの視座と食の位置づけ』）

旬の食べものは風土が生み出したもの。そして、人もまた同様です。[4]両者とも「風土のいとし子」と言ってもよいでしょう。

だからこそ両者は*不即不離。切り離してしまうと、いのちがまっとうできないのです。

日本の風土の特色は、歴然とした四季があることです。日本人は、昔から季節の賜物を春夏秋冬の大別でなく、十日間ほどで移ろいゆく「食まわり」として受け止めていました。それが「旬」。わきまえをもって扱わなければならないのは、実は旬の野のもの、山のものなのです。

たとえば、春はあらゆるいのちが萌え出ずる季節。早春のふきのとうに始まり、山みつば、せり、よもぎ、なずな、嫁菜、晩春のたけのこ、水ぶきで終わります。

いま、多くの食卓からは、旬どころか四季もなくなりました。スーパーにはハウス栽培のトマトやきゅうり、レタスや輸入のブロッコリーなどが年中並んでいます。スーパーに旬のものが並んでいても、どうやって食べたらいいかわからないから買わない、と言う人もいます。残念なことです。

甥が私の家に下宿していた頃のこと。彼は、いわゆる企業戦士として[1]チュウヤなく働いていて、毎日疲れて帰ってきては話をする元気もなく、ぐったりとソファに横になるのが常でした。

ある春の日、疲れきって顔の生気も乏しい彼に「菜の花丼」をつくってみました。彼は黙々と食べ始めましたが、半分くらい食べた頃でしょうか、「おばちゃん、おいしい。僕、この丼に三千円出す」と言いました。頬は赤みを増し、表情には明るさが戻っていました。それから、[5]堰を切ったようにその日あったことなどを朗らかにしゃべり始めたのです。

【中　略】

春たけなわの一ヵ月、摘み立てのつぼみを食べ続けると気落ちせず、からだにうっとうしさもなく過ごせます。季節を忘れて働いている人が喜ぶのは当然。旬の食べものは、いのちの手応えを感じさせます。それが「おいしい」の基本です。

「畏れる」とは、季節の賜物を慈しむ気持ちにほかなりません。そのことが、あなたのからだの仕組みをととのえて、生きていきやすく、いのちを養うことにつながるのです。

味の仕組みというのは、即、私たちのからだの仕組みであることを忘れてはなりません。

うちの庭には、百種類近い「食べられる」果樹や野草、野菜が育っています。多くは母が植えたものです。母は*疎開先から引き上げるとき、人間よりも早くそれらの苗を移動させました。

昔むかし、*万葉人が摘み草をしたのは、[6]自然の推移と人間の生理代謝は車の両輪だということを直感していたからでしょう。生きていきやすく食べるためには、この車の両輪に狂いがないか、常に見極めたいものです。旬というのは、生命に畏敬の念を抱き、慈しむためにあることを忘れないでくださいね。

旬のものの扱いは、採ってくるところから気をつけなければなりません。採ってきたら、きれいに洗って水に浸し、生き生きとさせてから茹でる。

茄でるといっても、ただ塩で茄でればいいものと、*灰汁を使わなければいけないもの、*糠を使うもの、油を使わなければいけないものと、いろいろあります。火の扱いもそれに適したものを考えましょう。

山形のあさつきは、生でも食べられますが、さっと湯引いてオリーブ油で和えてサラダにするとかけがえのないものです。私は春には毎日食べます。お湯を通す[2]カゲンは、ひと呼吸かふた呼吸。旬の野のものは、もっとも気を遣いますね。

子どもには、ああいうものを採りに行かせて、こまごまに切っておつゆにパッと入れさせたり、いろいろにする方法を教えたいものです。それこそが教育です。日本人って、香りや茄でカゲンに

デリケートに反応できる民族なのですから。

二〇一六年に『野菜に習う』という本を出しました。そのあとがきにも書いたことですが、「野菜に」の「に」という助詞に気づいていただきたいのです。人間が野菜に学ぶことはたくさんあります。

この本を出して、嬉しいことがありました。健太くんという小学六年生の男の子から手紙が届いたのです。この本を見て「キャベツの蒸らし炒め」をつくったら、とてもおいしかったという手紙でした。

たまたまお父さんが居間のテーブルに置いていた本を見て、つくってみたというのです。それがおいしかったから、次は「鶏のそぼろ」に挑戦したい、と。お会いする[3]キカイがあったから「どうだった？」と聞いてみると、「ちょっと手がくたびれちゃった」。

私のレシピでは、鶏のそぼろは、鶏ひき肉にしょうが汁、酒、砂糖、醤油、塩、それから調味料と同じくらいの水を加えてよく混ぜてから火にかけます。それから五本の箸で汁けが少し残るくらいまでかき混ぜ続けるのです。だから、しっとり柔らかい。

たしかにくたびれたかもしれませんが、ぼそぼそした鶏そぼろとの歴然たる違いを健太くんは実感できたのではないでしょうか。手を使い、目で覚え、舌で味わい、からだがどう変化するかを体感する。手間や時間を惜しんで、熱くしたフライパンでいきなりひき肉を炒めて調味料で味をつけたそぼろとは雲泥の差です。ものに従い、やらなければならないことをきちんとやる。それがおいしさをつくるということに触れたのではないでしょうか。[7]

畏敬の念は、頭だけ使っても身につきません。手足や五感を動かすことが大切なのです。

ものは、もの同士の調和で生きていけますが、人は、ものがないと生きていけません。私は積年の山裾暮らしのおかげで、そのことが実感として骨身にしみています。ものや食材に対する畏敬の念が培われていくと、自然や宇宙に対する態度も変わってくると思いますよ。

（辰巳芳子『いのちと味覚　「さ、めしあがれ」「イタダキマス」』）

＊なにごとのおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる　…
「どなた（どのような神様）がいらっしゃいますかはわかりませんが、何ともいえないありがたさから涙が自然とこぼれてきます」という意味。
不即不離　…　つきもはなれもしない関係を保つこと。
疎開　…　はげしくなる空襲（くうしゅう）をのがれるために都会から地方に移り住むこと。
灰汁・糠　…　食材のえぐみやしぶみをとるために使うもの。
万葉人　…　万葉集が作られた時代に生きていた人々。

問一　〰〰部　ー～3のカタカナを漢字に直しなさい。

問二　――部　ー「西行」とありますが、西行の和歌が収められている『新古今和歌集』の編者としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　紀貫之　　イ　松尾芭蕉　　ウ　藤原定家　　エ　清少納言

問三　――部　2「いのちの先端」とありますが、その説明として**ふさわしくないもの**を次から選び、記号で答えなさい。

ア　生き物の全てが生まれ出る根本。
イ　他者のいのちを意識させるもの。
ウ　生命の大切さを考えさせるもの。
エ　いのちが見える形で現れたもの。

問四　――部　3「あながち」・5「堰を切ったように」とありますが、その意味としてふさわしいものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

3「あながち」

ア　身勝手な　　イ　異常なまで　　ウ　必ずしも　　エ　ずいぶん

5「堰を切ったように」

ア　じわじわとにじみ出る　　イ　さらさらと流れ出る

ウ　ふつふつとわき出る　　エ　どっとあふれ出る

問五　――部　4「両者」とありますが、何と何を指していますか。それぞれ本文中の語句で答えなさい。

問六　――部　6「自然の推移と人間の生理代謝は車の両輪」について、

1　「自然の推移」を本文中の一語で言いかえなさい。

2　「人間の生理代謝」とはどういうことだと述べていますか。「～こと」という形に続く形で本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

問七　――部　7「おいしさをつくるということ」とありますが、そのために筆者が必要だと考えていることを二十字前後で説明しなさい。

四

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

問題に使用した

西加奈子作　孫係　は

著作権の関係で文章を掲載できません

問一　〰〰部　1～3の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二　――部　1「大きなため息」とありますが、その「ため息」にこめられた気持ちとして**ふさわしくない**ものを選び、記号で答えなさい。

ア　必要以上に気を遣われたくない気持ち。
イ　娘の愛情を重荷に感じている気持ち。
ウ　だらしない姿を人に見せたくない気持ち。
エ　誰にも邪魔（じゃま）されず一人になりたい気持ち。

問三　――部　2「私たちにすごく似ている」とありますが、その「似ている」ところを二十字以内で説明しなさい。

問四　［A］に当てはまる語を漢字一字で答えなさい。

問五　――部　3「協定を取り結んだ」とありますが、その「協定」とはどのようなものですか。簡潔に説明しなさい。

問六　――部　4「興じる」とありますが、その意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　さわぐ　　イ　演じる　　ウ　興味を持つ　　エ　楽しむ

問七　――部　5「正直なことと優しいことは別なんだ」とありますが、その説明としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　相手の嫌な部分を面と向かって伝えることは人を傷つけるが、本人が気づかないようにやんわりと伝えることが相手に向けた優しさになるから。

イ　相手の嫌な部分を面と向かって伝えることは人を傷つけるが、本人に伝わらないように悪態をつくことはその人を傷つけまいとする気遣いがあるから。

ウ　相手の嫌な部分を面と向かって伝えることは優しさだが、本人に伝わらないように悪態をつくことはただ悪口を言うことになるから。

エ　面と向かって悪態をつくことも真実を伝えるという意味では優しさだが、本人を傷つけまいと真実を伝えないことも違う意味の優しさだから。

問八　――部　6「私は大好きでした」とありますが、(1)誰の、(2)どのような点が「大好き」だったのですか。(1)は本文中の語句で、(2)は簡潔にまとめて説明しなさい。

〈問題はこれで終わりです〉

二〇二二年度　京都先端科学大学附属中学校　A日程〔A1〕入学試験　国語　解答用紙

受験番号

学校名　小学校

氏名

○

○

点線より下には何も記入しないこと。
《成績集計欄》

一

1

2

3

4

5

二

①

②

③

④

三

問一

1

2

3

問二

問三

問四

3

5

問五

と

問六

1

2

こと。

問七

四

問一

1

2

3

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

（1）

（2）

A1

国　語Ａ１

一【計１０点】

１　百　２　万　３　十　４　一　５　千

二【計１２点】

①　エ　②　ア　③　イ　④　ウ

三【計４０点】

問一　１　昼夜　２　加減　３　機会　（２点×３）

問二　ウ　（３点）

問三　ア　（５点）

問四　３　ウ　５　エ　（３点×２）

問五　旬の食べもの　と　人　（３点×２）

問六　１　旬　（３点）

２　からだの仕組みをととのえて、生きていきやすく、いのちを養う（こと。）　（５点）

問七　手足や五感を動かして手間や時間をかけること。　（６点）

四【計３８点】

問一　１　しょうじき　２　めざ　３　ほか　（２点×３）

問二　ウ　（４点）

問三　周りの人に対していい人を演じている点。　（５点）

問四　目　（３点）

問五　孫と祖父を係として演じてその役をつとめあげること。（５点）

問六　エ　（３点）

問七　イ　（５点）

問八　１　おばあさん（おばあちゃま・ばあさんも可）　（３点）

２　おじいさんにだけ悪態をつく点。　（４点）